

## アジアの新種ミツバチの和名

### 玉川大学ミツバチ科学研究施設

本誌 18 巻 4 号で Apidologie 誌「アジアのミツバチ」特集号を紹介した際、2 種の新種のミツバチについて学名で記述したが、適当な和名がある方が都合がいいということで、本記事にあるような和名を考案し、これを一般に用いてもらえるように発表、また参考までに分布図を公表することにした。

学名上の意味と、分布などから 2 種の新種ミツバチの和名が決められた。Apis nuluensis はもともと現地語で「山」を意味する "nulu" を学名の元にしており、英名として "mountain bee" を用いている文献もある。しかし、トウヨ

ウミツバチの生態型を示す場合にも便宜的に同じ表現を用いることがあって誤解のおそれもある。同種の分布が発見地であるキナバル山中腹に限られていることも考慮して、より特定性の高い名前「キナバルヤマミツバチ」を本種の和名とした。A. nigrocincta に関しては、学名通りに解釈し、すなわち、"nigro"=黒と "cincta"=帯で、「クロオビミツバチ」とした。外見上、腹部の濃色の帯が顕著であることが学名の由来であり、和名もそれにならった。

これで、現在、アジア地域に生息するミツバチは計 8 種となり、それぞれの分布域を図に示した。詳細な分布、特に島嶼地域や内陸深部の分布は不明な点が多く、また図中の国境線と分布圏の位置付けはごく曖昧なものであることを了承していただきたい。オオミツバチでは、さらに追加される可能性のある新種候補がすでに 2 種ある (18 巻 4 号参照) ので、この分布図は、現在の 8 種についての暫定的なものということになる。

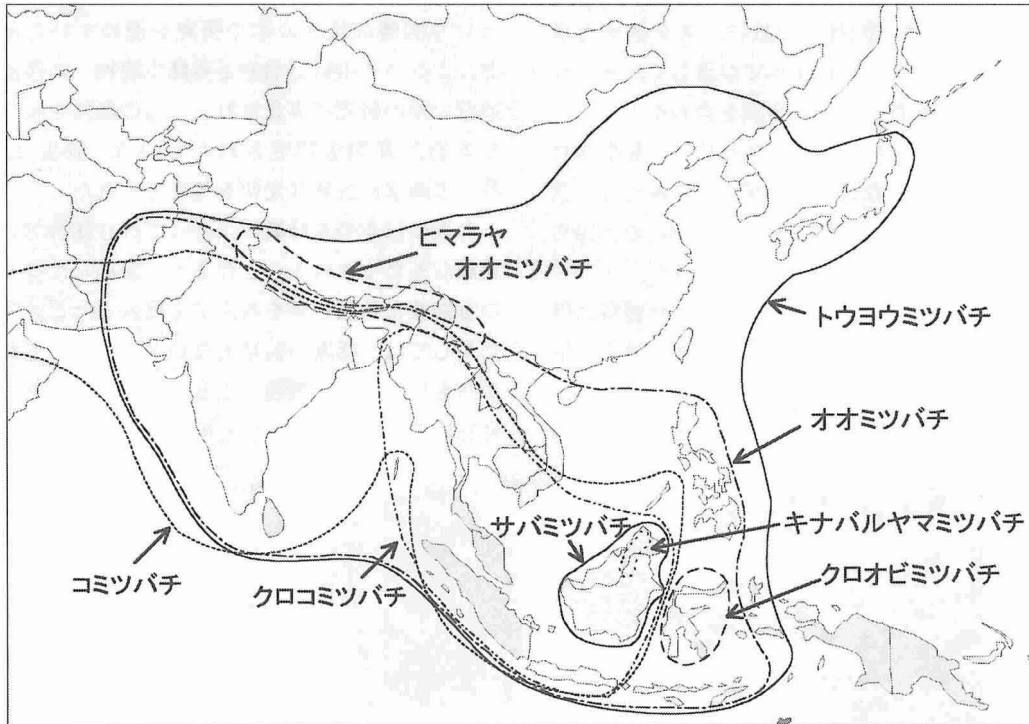


図 1 アジアのミツバチの分布  
コミツバチの分布西限はペルシャ湾沿岸地域までである (Ruttner, 1988).